

読 mm書ノート | <<崎陽日録 タイムラインの平文 WORD 化白黒 B00X>>2024-09-02  
08:25 | ページ No. : 1

沖取締遠見番吉川次郎平児島唯助にかひたんより彼舟  
へ遺す所の横文字書翰相渡

-----  
2024-09-02 08:25 | ページ No. : 1

其外隠密方吉岡十郎左衛門 盜賊方 田口惣兵衛等出船いたし候様申渡浦證文用意銀  
等渡し遺す

-----  
2024-09-02 08:26 | ページ No. : 1

今日月並の御礼奉行衆可被請のところ右の取込故延引

-----  
2024-09-02 08:26 | ページ No. : 1

午刻過野母御番所当番の遠見番原嘉兵衛今朝卯中刻頃野母より未申の方に當り二十  
四五里程沖に紅毛船一艘見出すのよし注進申出る

-----  
2024-09-02 08:27 | ページ No. : 1

佐嘉間役関傳之允よりも香焼沖午未の方に里数凡そ二十里余白帆の船一艘見ゆるの  
よし追々深堀役人より申越の旨届け出る

-----  
2024-09-02 08:27 | ページ No. : 1

午の中刻小瀬戸御番所より未申の方に當り七八里沖に紅毛船帆影之見ゆるよし同  
所當番の遠見番古川徳四郎 未の上刻注進申出る

-----  
2024-09-02 08:27 | ページ No. : 1

追々近寄に付波戸場役呼出し援舟の用意例の通り可心得旨徳右衛門申渡

-----  
2024-09-02 08:27 | ページ No. : 1

ら此節入津の義稀なる事にて六十年も己前に是あり 其後絶て無之  
考に例年咬溜吧出船の頃は敵船の妨にても有之

-----  
2024-09-02 08:28 | ページ No. : 1

作三郎申出 例は小瀬戸より七八里沖の注進有之旗合の檢使さし出さる

-----  
2024-09-02 08:29 | ページ No. : 1

昼頃より天快晴して沖手の風殊に烈しければ例よりは早念に旗合さし出さるる方

可然よしにて旗合の紅毛人用意可致よし作三郎に申渡すの処用意宜の段申

-----  
2024-09-02 08:29 | ページ No. : 1

未刻前旗合の検使菅谷保次郎上川伝右衛門の兩人奉行の前に出て旗合に出動するのよしを申

-----  
2024-09-02 08:30 | ページ No. : 1

図書頭聞れて申さるるは紅毛船入津の旬季後れて来ることなれば異船の程も難斗し  
定例検抽出程合よりも此度は早めに差出の間、容易に本船へ近寄るべからず 沖出のものともへ様子委細に相尋ね、もし疑も有之に於ては港内へ不入やうにいたし早速立つ可申渡され兩人の検使承之庁を退出して波戸場より出船す（蘭人密かに言上の筋もこれ有るにつき手続き徳右衛門より巨細に申し遣わす 通航一覧 400 上）御役所附貳人 大木常次

-----  
2024-09-02 08:31 | ページ No. : 2

波戸場役 白木理十郎一船同援船出役の通詞島松  
村又左衛門 三島松五郎（通詞目付の筈？）など一船

-----  
2024-09-02 08:33 | ページ No. : 2

同援船見届け御役所附高尾幸太夫 船番野口勘次郎 町役野口勘十郎等登船

-----  
2024-09-02 08:33 | ページ No. : 2

オランダ人を連れて小瀬戸番所へ行き遠眼鏡で見るとまだ7/8里も沖

-----  
2024-09-02 08:34 | ページ No. : 2

が船頭がオランダ船だ荷足も深く見える（喫水が深い

-----  
2024-09-02 08:35 | ページ No. : 2

全船漕ぎ出して伊王島前で待機したところ順風さらに激しく異国船が近寄る

-----  
2024-09-02 08:35 | ページ No. : 2

今朝早くから出ている沖取締遠見番の船は佐賀領鷹島（高島か？）辺りへ行き 隠密方盗賊方など出迎えの船々も集まり一同遠見をしていたら南方面7/8里沖に帆影が見える

-----  
2024-09-02 08:35 | ページ No. : 2

沖遠見番が行こうとすると乾の風（戌亥）北西風が激しく異国船には追い風こちらには向かい風

-----  
2024-09-02 08:36 | ページ No. : 2

伊王島から2/3里のあたりでようやくその船に近寄れたが北西の風強く波が高く船に近寄ることができない

-----  
2024-09-02 08:36 | ページ No. : 2

少し距離があるところから乗り付けてみると紅毛船の様ではあるが旗印もなく疑わしい まず向こうから書簡を出させようと色々手真似をし

てみたが出さないの怪しく思いますがこのことを急報（注進）しようとするが小舟なのでこの船を離れば向こうは大船で順風を受けて走ればとても追い付かないので注進は延期

-----  
2024-09-02 08:37 | ページ No. : 2

かの船に引かれて行くと伊王島から1里の沖で赤白青の大旗を掲げた

-----  
2024-09-02 08:37 | ページ No. : 2

と出島の阿蘭陀人が差し出した横文字書簡を差し出し この横文字に書き入れて戻す仕来りなので待つがいつまでも無いので度々催促すると返事を書く手真似で答えるが何の動きもないのでさっきの横文字を返せと厳しく言うとその後は誰も出てこない

-----  
2024-09-02 08:38 | ページ No. : 2

この船にひかれ佐賀領の神の島その後四郎が島の沖まで来

-----  
2024-09-02 08:38 | ページ No. : 2

あまりにも返書が遅く不審だと隠密方乗り出して

遠見番の船に乗り付けどう言う次第で返書が遅いのかと遠見番に聞けば上記のことを言う

-----  
2024-09-02 08:39 | ページ No. : 2

旗合わせの船々も乗り出し四郎が島まで来た

-----  
2024-09-02 08:39 | ページ No. : 2

検使二人通詞才右衛門に命じて紅毛人に聞かせるとオランダ旗に間違いないという

ので四郎が島辺りにしばらく待っていた

---

2024-09-02 08:41 | ページ No. : 2

かの船ここで少し漂い沖の方へ舳先を向かわすのかと思えたが舳先に釣りおいてあるバッテリー船一艘に異国人 14 か 15 人乗り込んでさっと海上に降り立ち

---

2024-09-02 08:41 | ページ No. : 2

紅毛人二人船縁に出てどこの国の船かと訊けば 異国人は阿蘭陀船でバタビアから来たとオランダ語で答える

---

2024-09-02 08:41 | ページ No. : 2

「去年帰帆の役人阿蘭陀

いいきすは渡来しているかと訊けば乗ってきていると異国人どもが答え

---

2024-09-02 08:42 | ページ No. : 3 異国人どもが言うには「紅毛人二人ともバッテリーに乗り移れ」と言う 「程なく検使一同がこの船に来る」と紅毛人が答える

---

2024-09-02 08:42 | ページ No. : 3

かの船より何やら大声で叫ぶと同時に紅毛人ホウセマンをバッテリー引き込み大に驚いた阿蘭陀シキンムルは後退りして船の中程にいたのを異国人ども残らず剣を抜き持ち紅毛人の乗船へ飛び込み理不尽にバッテリーに連行した

---

2024-09-02 08:43 | ページ No. : 3

この船に乗っていた通詞 3 人六三郎は検使の船に飛び移って（阿蘭陀船から逃げた）これを知らせ

---

2024-09-02 08:43 | ページ No. : 3

繁次郎作七郎は紅毛人危うし？海中に落ち入りそ

---

2024-09-02 08:44 | ページ No. : 3

この騒動に役船援船数十艘集まっていた船々は時雨に舞い散る木の葉の様にバラバラと逃げ散って無惨なり

---

2024-09-02 08:45 | ページ No. : 3

隠密方は検使の乗船へ漕ぎ着けこの次第を庁（奉行所）へ急報すると言い捨てすぐに港へ乗り入れる

-----  
2024-09-02 08:45 | ページ No. : 3

盗賊方もこの様子を遠目ながら見て検使の乗船が乗り遅れるのが見え心許なく引き返し高鉾島の横で検使の乗船と出会ったところ「この状況を早く庁へ報告せよ」と命じるので早く漕ぎ立てようとしても漕ぎ手たちはことの次第に驚いてなかなか漕ぎ進まない 幸い曳舟の役に出ていた小舟がいたので 乗り換えて戸町御番所下へ行ったら御番所に詰めていた者に申し捨て直ちに庁へ向かう

-----  
2024-09-02 08:45 | ページ No. : 3

遠見番の船はかの船より1町も遅れて沖の様子異船であることを検使に伝えよう懸命に櫓を漕ぐが大船は順風をいっぱいを受けてその早いことはどうしようもない

-----  
2024-09-02 08:46 | ページ No. : 3

ようやく検使の船に漕ぎ着け沖の様子を伝えようとするともう紅毛人が奪われたと他の役船から聞き一刻も早く庁へ報告すべしとこれまた港内に乗り付ける

-----  
2024-09-02 08:47 | ページ No. : 3

曳舟の役に出ている6人の漕ぎ手の小舟でこれ幸いと呼び止めて乗り移り検使二人は供を見捨て？槍を捨て西泊御番所へ急ぎ程なく着いて番頭への面会を伝える

-----  
2024-09-02 08:47 | ページ No. : 3

番頭は病で会えず物頭に会い異国船は未だ錨を下ろしていないので港内に乗り付けることもありうる 早々に人数(軍勢)を手配されよと命じ西泊御番所を乗り出て供を連れていないので大波止かに上陸することを憚り江戸町の上り場からすごと上陸

-----  
2024-09-02 08:51 | ページ No. : 3

庁では名月の昼より後は天快晴で待ち望んでいた阿蘭陀船が入港した

-----  
2024-09-02 08:51 | ページ No. : 3

意して次の間に控

-----  
2024-09-02 08:52 | ページ No. : 3

検使の二人より月番に手紙が届

-----  
2024-09-02 08:52 | ページ No. : 3

を四郎が島辺りで作成した書を通詞の作三郎が  
持参したので私（？）が月番なので図書頭に届けて披露した

-----  
2024-09-02 08:53 | ページ No. : 3

同時に隠密方十左衛門が走って来て沖で起きたことを廣間まで急報した

-----  
2024-09-02 08:53 | ページ No. : 3

図書頭はこれを聞いて対面所に出て大いに驚き具足を用意しろと声をかけ近習の者が具足櫃を持参すれば小

-----  
2024-09-02 09:33 | ページ No. : 4

具足を着用し対面所に出て床几にかかって詳細に聞き処方の警備など命じられる

-----  
2024-09-02 09:33 | ページ No. : 4

代官高木作右衛門を呼んでかねて手当の通り（大井昇論考に詳細あり）  
すぐに備えよ 弟の道之助は稲佐郷へ行き石火矢を準備せよ

-----  
2024-09-02 09:33 | ページ No. : 4

支配勘定人見と中村 普請役荒堀松本を呼び出しそれぞれ直に命じこれらの者直ちに  
戻って物の具（具足 鎧）を着用して再び出頭

-----  
2024-09-02 09:36 | ページ No. : 4

諸家の間役を呼び出され

-----  
2024-09-02 09:36 | ページ No. : 4

真っ先に御番所当番の佐賀の間役関に沖の様子を説明し紅毛人を取り戻してこの異国船を打ち壊すからすぐに準備せよ人数援  
兵を即刻国元へ報告しろと命じる

-----  
2024-09-02 11:01 | ページ No. : 4

し唐船3艘を襲ったとの急報

-----  
2024-09-02 11:01 | ページ No. : 4

ず奥へ入り高島四郎兵衛を呼んで警備場所を指図

-----  
2024-09-02 11:01 | ページ No. : 4

上條徳右衛門はこれを書き  
取り書面にして高島四郎兵衛に渡す

---

2024-09-02 11:01 | ページ No. : 4

中村継次郎(勘定)用人木部幸八郎等がこれを承って  
申し渡す

---

2024-09-02 11:01 | ページ No. : 4

人見藤左衛門(勘定)松本佐七(普請)を港内見回りとして派遣する(これは中村の怯  
懦を見かねての代替わり)

---

2024-09-02 11:01 | ページ No. : 4

諸家の間役一同を呼び出し書院にて非常の事態なので国元へ急報せよ船や人数(軍  
勢)も差し出せと命じ皆退出

---

2024-09-02 11:02 | ページ No. : 4

佐賀間役筑前間役へは人数増援を早急に国元へ伝えよ → 筑前福岡藩の出兵に  
つながる

---

2024-09-02 11:03 | ページ No. : 4

れ唐津の関次左衛門へは在邑なので状況次第では軍勢を派遣することにもなるので  
心得よ

---

2024-09-02 11:03 | ページ No. : 4

両組唐人番など呼び出されこの状況で頑張って手柄を立てよ

---

2024-09-02 11:04 | ページ No. : 4

再び両家の間役を呼び出され兼ねての想定通りに警備の軍勢を配置し焼き打ちに支  
障ない様準備せよ

---

2024-09-02 11:04 | ページ No. : 4

紅毛人二人を捕らえられたまま出航させるなどあってはならないこと 妨害の手段を  
とるべし

---

2024-09-02 11:05 | ページ No. : 4

準備が出来ないまま出帆すれば打ち壊すべし

-----  
2024-09-02 11:05 | ページ No. : 4

用意が整い次第図書頭が出馬する

-----  
2024-09-02 11:05 | ページ No. 4

山田吉左衛門花井常蔵の二人は両御番所へ行きすぐに人数を準備し石火矢の準備

-----  
2024-09-02 11:06 | ページ No. 4

季節外れの阿蘭陀船の渡来だから異国船の可能性もありくれぐれも油断するなど出掛けに注意した

-----  
2024-09-02 11:06 | ページ No.

阿蘭陀人は当地に滞在する以上は日本人も同じ安安と奪われたことの情けなさよ

-----  
2024-09-02 11:06 | ページ No. 4

再び生きて帰るな

-----  
2024-09-02 11:07 | ページ No. 4

図書頭再び両家の間役を呼び出し紅毛人取り戻しのため検使二人が行くので即刻警固船を出せ

-----  
2024-09-02 11:07 | ページ No. : 4

宿屋丁乙名蘭唐通詞も帯刀願ひ

-----  
2024-09-02 11:07 | ページ No. 4

年寄召使も帯刀願ひ

-----  
2024-09-02 11:08 | ページ No. 4

貸し具足武器などそれぞれ持ってあちこちへ差し遣わす

-----  
2024-09-02 11:09 | ページ No. : 4

り再び両家の間役を呼び出しなぜ異国船からでたバツテイラ 3 艘が御番所前を通行させたか 3 艘ともすぐ召捕れ

-----  
2024-08-13 08:21 | ページ No. : 5

カピタン始め在留の紅毛人黒坊とも通詞やそのほかに警護され庁に来た

-----  
2024-09-02 11:09 | ページ No. : 5

用人木部幸八郎を御番所へまた遣わされる

-----  
2024-09-02 11:12 | ページ No. : 5

検使二人は図書頭前を退いて通詞中山作三郎と田村多吉郎を連れて行こうとしたが用事があるため行けない

-----  
2024-09-02 11:12 | ページ No. : 5

石橋助左衛門を連れていくべしと言えは今話さなければいけない  
(報告することが) ことがあるので後から行くと言う

-----  
2024-09-02 11:09 | ページ No. : 5

検使二人は(通詞無しで?)御役所附溝口仙兵衛林與次衛門召し連れて波止場へ行く

-----  
2024-09-02 11:13 | ページ No. : 5

石橋助左衛門が走って来て庁に言っておくことがあるので今しばらくお待ちください。と言い捨てて引き返した

-----  
2024-09-02 11:14 | ページ No. : 5

通詞を連れていくため会所へ行き 居合わせるものは同行せよ

-----  
2024-09-02 11:14 | ページ No. : 5

田村多吉郎が来たので幸いと同行を申し付けるとカピタンに呼ばれているので直ぐに行かねばと言って去った

-----  
2024-09-02 11:14 | ページ No. : 5

波止場へ行ったところ石橋助左衛門甚左衛門が来たので召し連れてすぐに出船した

-----  
2024-09-02 11:15 | ページ No. : 5

石橋助左衛門はバッテリー乗り入れを知ったので波止場へ行くことについてはいまだお指図が無いのでひとまず引き取り事実確認の上すぐ後から追っかけますというので別の船で戻して



読書ノート | <<崎陽日録 WORD 化 完成版>>2024-09-07 07:53 | ページ No. : 5

甚左衛門独りと御役所附二人(溝口林)も同じ

船に乗り行くと遠見番嘉悦忠兵衛(の船)が乗り付けたので異国船の様子を尋ねた

---

2024-09-07 07:53 | ページ No. : 5

で異国船の近くへ乗り付け異国人を呼び出せと申しつけたところ甚左

---

2024-09-07 07:54 | ページ No. : 6

衛門心得て大声で異国船へ声をかければ捕らえられた用事があるのならこちらの船  
へ来ら

れよと言う

---

2024-09-07 07:54 | ページ No. : 6

それができないと答える(通訳する)と大砲等備え付けて嚴重に武装したバ  
ッテイラにハウセマンを乗せて異国人 15 人が船まで漕ぎ着けた

---

2024-09-07 07:54 | ページ No. : 6

検使 2 人が提灯を出し

てハウセマンと声を掛けると帽子をとって会釈した

---

2024-09-07 07:55 | ページ No. : 6

ハウセマンに尋ねたところ夜

の間は本船へ他の船をつけることできないので明日の朝検使様が来ていただければ

---

2024-09-07 07:56 | ページ No. : 6

このままでは帰れないので異国船へ乗りつけるべしと漕ぎ寄せ再び異国人を呼び出  
しせよ

---

2024-09-07 07:56 | ページ No. : 6

とハウセマンが船際に出てきた

---

2024-09-07 07:56 | ページ No. : 6

頭分のものが検使

の船に来るべし

---

2024-09-07 07:57 | ページ No. : 6

ハウセマンは船の中に入り船主に聞いている様子で

---

2024-09-07 07:57 | ページ No. : 6

異国人どもが

バッテリーに数人が乗り 検使の船を挟んで乗り付ける

---

2024-09-07 07:57 | ページ No. : 6

石火矢を前後

に配置しその他銃機が数々あり抜き身の剣なども見え銃砲には何れも弾込めの様子  
で異国

船より怪しい火器を持ち下りバッテリーへ乗る

---

2024-09-07 07:58 | ページ No. : 6

生きている心地はなかった

---

2024-09-07 07:58 | ページ No. : 6

事情を聞かぬままでは検使の役目が立たない

---

2024-09-07 07:59 | ページ No. : 6

覚悟を決めて返事を求めると異国人が出てきて何かを言ったけれども言葉がわから  
ずそのうちにハウセマンが出てきて申すにはシナからきたとのこと

---

2024-09-07 07:59 | ページ No. : 6

船の形は極めて大きくシナの船ではない

---

2024-09-07 07:59 | ページ No. : 6

今度はベンガル インドから来た

---

2024-09-07 08:00 | ページ No. : 6

二人のオランダ人を返せと言うと 船内に食料がなく必要なものをいろいろあげて差  
し入れてくれれば2人のオランダ人を返し他に用事もないので明日にでも帰帆する

---

2024-09-07 08:00 | ページ No. : 6 「文字のみ」

横文字書面付きで差し出す

---



2024-09-07 08:00 | ページ No. : 6

ベンガル発で船主の名前並びに水食物類乏しいのでこれを受け取りたいとのが書いてあった

---

2024-09-07 08:01 | ページ No. : 6

この品々夜中には用意ができない 明日までには間違いなく差し遣わすから二人のオランダ人は今すぐ返せと甚左衛門いろいろ訳して言うけれども承知しない

---

2024-09-07 08:02 | ページ No. : 6

しからは異国人のうち二人（フェートン号の乗組みから二人の意味）渡すべし

---

2024-09-07 08:02 | ページ No. : 6

今晚そちらから二人の人質を返し  
でも決して約束は破らず明日の朝食べ物を届ける 二人のオランダ人を返せばこっちで預かる二人も引き換えに差し返すから人質を出すようにと言ってもなかなか異国人は承諾しない 検使は二人を返さないうちは帰帆はできない いずれ異国船に移るといえば甚左

---

2024-09-07 08:03 | ページ No. : 6

それなら本船に移るようにと船主が言っている

---

2024-09-07 08:04 | ページ No. : 7

怪しい言い分なので甚左衛門は不審に思った

---

2024-09-07 08:04 | ページ No. : 7

検使二人はそれなら船に乗ると言う

---

2024-09-07 08:04 | ページ No. : 7

甚左衛門がハウセマンに検使が乗船しても不敬のことはないかと再び尋ねる

---

2024-09-07 08:04 | ページ No. : 7

自分では何とも言い難いとの答え

---

2024-09-07 08:04 | ページ No. : 7

検使達が迷っているとハウセマンが大声で早くこの異国船を離れた方がいい

---

2024-09-07 08:05 | ページ No. : 7

で異国船を漕ぎ離れて検使の船は神崎に滞船して右の次第のあらましを紙に認め横文字を添えてお役所附林與次衛門に持たせて庁へ遣わして指図を待つて当所に滞船する

---

2024-09-07 08:07 | ページ No. : 7

夜も丑三つごろ

---

2024-09-07 08:10 | ページ No. : 7

で検使二人は両御番所へ行き警護やその他の準備を言い渡すと漕ぎ出したところ

---

2024-09-07 08:11 | ページ No. : 7

山田吉左衛門花井常蔵に行き合ったので同じ船に乗せて図書頭指図の内容などを話し合う

---

2024-09-07 08:11 | ページ No. : 7

用人木部幸八郎も来たので同様に戸町御番所へ行き番頭蒲原次衛門に会い人数手配の催促

---

2024-09-07 08:11 | ページ No. : 7

深堀諫早の人数未だ来ないということにつきそのまま待っている

---

2024-09-07 08:12 | ページ No. : 7

不敬はなかろうなと通詞が強く尋ねる

---

2024-09-07 08:12 | ページ No. : 7

それはなんとも 申し難く 疑問に思い 返答したわけは そのとき船主 はなはだ 怒り顔になって何か仔細のこと あるような様子に見受けた

---

2024-09-07 08:13 | ページ No. : 7

検使が乗船の上狼藉のことあるかも図り難しと思ひ検使の船は離れた方がいいと

---

2024-09-07 08:15 | ページ No. : 7

庁では検使が持ち帰った異国船が差し出した横文字書きつけを月番より図書頭の前へ

---

2024-09-07 08:15 | ページ No. : 7

この船は ベンガルを出港して船主の名前はぴうろうと言うそうです 船の中では水や

---

2024-09-07 08:15 | ページ No. : 8

食物類が乏しくなり 補給してほしいと船主が言っております ホウセマン シキンムル」

---

2024-09-07 08:16 | ページ No. : 8

その旨を波止場役を呼び出して野菜薪蕪根など用意するように命じた

---

2024-09-07 08:16 | ページ No. : 8

お代官の手代へ水船壹艘を早々に差し出すよう命じられた

---

2024-09-07 08:16 | ページ No. : 8

右の品々を取揃い沖検使に渡すようにとの指図を申しつけを遣わす

---

2024-09-07 08:16 | ページ No. : 8

水主などの帯刀の願い書を代官手代が持参

---

2024-09-07 09:04 | ページ No. : 8

五箇所宿老一同呼び出す江戸状田九左衛門京巨知部次郎左衛門大阪薩摩屋仁兵衛堀  
佃屋又右衛門が交代で来る

---

2024-09-07 09:04 | ページ No. : 8

高木藤一郎地下宿老森又左衛門濱武元右衛門徳見茂四郎林伊三太等  
訴えて先年南蛮船焼き打ちの節舟仕切りの義宿老一手にて取り切り候例有之とも当  
時右体の義は力及ばず候とも手附の人足など五ヶ所五箇所会所へ集め待機させてお  
りますので御用があれば承りますと申し出る

---

2024-09-07 09:05 | ページ No. : 8

紅毛人を取り戻すためにコンパニヤ印会社印を持って望みの品を差し出すと異国船  
へ申し渡したいとのこと そのように取り計らうよう申し渡す

---

2024-09-07 09:05 | ページ No. : 8

両御番所手薄なので次々に検使差し遣わしても「備相立候趣不申来」警備準備が出来たと  
の報告が来ないの

---

2024-09-07 09:06 | ページ No. : 8

図書頭は心配されてまたまた人見藤左衛門と荒堀五兵衛を派遣する

---

2024-09-07 09:06 | ページ No. : 8

御船佳行丸に乗り組み武器を揃えて出船せよと夜中命じられ二人は即座に疋を出る

---

2024-09-07 09:06 | ページ No. : 8

御船飾り等に手間取り遅れて暁六つ時頃（午前 5 時）出船する

---

2024-09-07 09:07 | ページ No. : 8

荒堀五兵衛は引下げ勤めの身分のため槍を持ちたい

---

2024-09-07 09:07 | ページ No. : 8

この時中村継次郎に参れと図書頭が命じたが中村継次郎が言うには差込（剣）を持参していないので参上できませんと答えるので図書頭が「それはことかけの事使い古しだが自分の差込（剣）を用立てるからそれを使え

---

2024-09-07 09:10 | ページ No. : 8

江戸を発つときに仮養子を願い出ました

---

2024-09-07 09:10 | ページ No. : 8

は人見藤左衛門は港廻りに出て帰ったばかり

---

2024-09-07 09:10 | ページ No. : 8

中村継次郎はどのように申して逃げたので人見藤左衛門が見かねて進み出た

---

2024-09-07 09:12 | ページ No. : 8

図書頭はやむを得ず人見藤左衛門に

-----  
2024-09-07 09:13 | ページ No. : 9

翌 16 日異船に旗が上がった

-----  
2024-09-07 09:13 | ページ No. : 9

かびたんが観察するとこれはイギリスの軍艦です

-----  
2024-09-07 09:13 | ページ No. : 9

夜中に準備し今日江戸表への注進刻付け宿次で言上したのは左の通り

-----  
2024-09-07 09:14 | ページ No. : 9

両御番所からは今もって準備ができていないとの知らせが検使 4 人より御役所付き  
溝口仙兵衛をもって報告してきた

-----  
2024-09-07 09:16 | ページ No. : 9

高木作右衛門の手代を呼び出し作右衛門が警護している稲佐郷を引き上げ野母支配  
所へ警備に行くよう申し伝えよと命じられる

-----  
2024-09-07 09:16 | ページ No. : 9

人数を揃えよと佐賀への申し渡しはしているけれども作右衛門よりも申すように命  
じられる

-----  
2024-09-07 09:16 | ページ No. : 9

作右衛門がほどなく庁へ現れたのでいろいろ準備の事について細かく命じられ作右  
衛門は即刻野母へ出発した

-----  
2024-09-07 09:16 | ページ No. : 9

人見藤左衛門その他のものより今朝はお役所付き溝口仙兵衛に申し伝えた両御番所  
の人手がなく人数を増やすことなど次々に催促しているところ諫早の軍勢はほどな  
くくるだろうとの答えが来るがいつとの答えは返ってこない

-----  
2024-09-07 09:17 | ページ No. : 10

横文字通詞を異国船へ遣わしたが遅れておりこれから出船するとの報告がやってき  
た

-----  
2024-09-07 09:17 | ページ No. : 10

またまた肥前聞役関傳乃允を呼び出し厳しく申し渡した  
焼き打ちについて準備はどうなっているか焼き打ちの方法について説明せよ

-----  
2024-09-07 09:18 | ページ No. : 10

異国船出船の可能性 肥前聞役関傳之允に図書頭会って焼き打ちを命ずるが聞役は自分ではわからないので深堀役人に書き付けを出させる

-----  
2024-09-05 10:34 | ページ No. : 10

代官高木作右衛門が野母に出張しているので警護可能の人数を差し出す旨申し渡し  
関傳乃允が退去する

-----  
2024-09-05 10:34 | ページ No. : 10

異国船を沈める方法について林伊三太石本幸四郎田口惣兵衛（東浜町乙名 レザノフ  
の来航時 白帆注進 55 p）中山作三郎らが申し立てる

-----  
2024-09-05 10:34 | ページ No. : 10

-----  
2024-09-05 10:35 | ページ No. : 10

沖においては検使の面々が両御番所の人数が揃わないのでしきりに催促して船に  
いるうちに夜も明け（6 時 17 分）遠眼鏡を持って異国船を観察するとバツテイラ 3 4  
艘を異国船の周りに下ろし異国人 5 6 人ずつ乗り込みまずは穏やかな様子

-----  
2024-09-07 09:18 | ページ No. : 10

人見藤左衛門と荒堀五兵衛が佳行丸に乗船して御番所へ乗り付け

-----  
2024-09-07 09:20 | ページ No. : 10

検使の面々へ図書頭が申し含められたことを伝え紅毛人を返せば水野菜をやるとカ  
ピタンが異国船へ遣わす会社印の横文字を通詞が持参したのでまず右の書簡を遣わ  
すのがよかろうと衆議決して

-----  
2024-09-07 09:20 | ページ No. : 10

通詞甚左衛門義十郎に持たせてお役所付き仙兵衛が付き添い異国船へ派遣する

-----  
2024-09-07 09:21 | ページ No. : 10

異国船からはシキンムルが執筆した返書を差し出したのでこれを受け取って帰っ  
てきた

-----  
2024-09-07 09:21 | ページ No. : 10

食物類を本船で受け取れば他に用事もないので私どもを返すと言い厚くご挨拶する

-----  
2024-09-07 09:21 | ページ No. : 10

加えて船主が頼む事は船中に病人があるので生牛並びに野牛をお遣わしてください

-----  
2024-09-07 09:21 | ページ No. : 10

船主 名前印

-----  
2024-09-07 09:22 | ページ No. : 10

この横文字が庁へ届いたので図書頭がこれを見て

-----  
2024-09-07 09:22 | ページ No. : 10

不体の事など尋ねることができないまま出帆することになれば打ち壊すことを肥前の家来に命じよと検使の面々に申し越されたのでこのことを両御番所の番頭へ伝えた

-----  
2024-09-07 09:23 | ページ No. : 10

午の刻（12 時 11 時から午後 1 時）ごろ異国人バツテイラで御番所近くへ乗り来たる

-----  
2024-09-07 09:24 | ページ No. : 10

急いで乗り出したところバツテイラは追いかけられていると思ったのか太田尾より沖の方へ引き返し追いつけないので戻る

-----  
2024-09-07 09:24 | ページ No. : 10

水野菜の件については紅毛人を受け取ってから届けよと図書頭が指図されたのではあるが

-----  
2024-09-07 09:24 | ページ No. : 10

野菜や水を届けたほうがよかろうと検使の面々その他の者までも評議一結して山田吉左衛門常蔵木部幸八郎助左衛門多吉郎を召し連れそれぞれ庁へ行き以上のことを図書頭に申し上げたところ同意いた

-----  
2024-09-07 09:26 | ページ No. : 11

だいたので常蔵木部幸八郎を召し連れ沖へ出て以上のことを伝える

---

2024-09-07 09:27 | ページ No. : 11

吉左衛門は用事があ

りそのまま庁に残る沖の異国船警護については佐賀大村から兵が来るはずであるが  
未だどこからも来ない

---

2024-09-07 09:27 | ページ No. : 11

遠見番の船 5 艘が遠くから見守っていたが

---

2024-09-07 09:28 | ページ No. : 11

5 艘弓刀はないが船底に手槍を用意していたのでこれを構えて今や遅しと待ってい  
た

---

2024-09-07 09:28 | ページ No. : 11

バツテイラは近くに来て 1 人帽子をとって招くような様子をしていたがいかなる企  
みかと

---

2024-09-07 09:28 | ページ No. : 11

5 艘の船の真ん中まで漕いで来て遠見番嘉悦忠兵衛別府恒三郎が乗っている船に近  
寄り紅毛人ホウセマンを（彼らの船に）突っ込んでバツテイラは矢のように素早く  
帰っていった

---

2024-09-07 09:29 | ページ No. : 11

は左右に大砲を備え乗り込みの

もの短銃を持ちあるいは槍などを持っているので銃がなければ太刀打ちできない

---

2024-09-07 09:29 | ページ No. : 11

ホウセマンを受け取り早速彼を連れて両御番所にいる検使が乗船する佳行丸へ乗り  
付け右の次第を嘉悦忠兵衛が報告

---

2024-09-07 09:29 | ページ No. : 11

検使の船がホウセマンを受け取り通詞甚左衛門茂十郎を呼んで異国船の様子とホウ  
セマン一人を戻した子細を尋ね

---

2024-09-07 09:30 | ページ No. : 11

一人戻した以上水と野菜を直ぐに届けるべきだろうと通詞甚左衛門茂十郎に御役所  
付き溝口仙兵衛を付き添わせて一同乗り込み庁へ向かった

---

2024-09-07 09:30 | ページ No. : 11

カピタン以下の者ども広間に出向きハウセマンに会って喜び限りなし

---

2024-09-07 10:20 | ページ No. : 11

図書頭和訳するように命じられて対面所へ行く 通詞目付義傳乃進通詞名村多吉郎カ  
ピタン

---

2024-09-07 10:21 | ページ No. : 11

ハウセマンを上陸させますので食べ物類をなにとぞ今日中に本船へお届けください

---

2024-09-07 10:21 | ページ No. : 11

もし今日中に届かなければ 26 明朝までに日本船唐船を焼き払います

---

2024-09-07 10:22 | ページ No. : 11

これを聞かれて図書頭不快げに奥へ入る

---

2024-09-07 10:22 | ページ No. : 11

船中の様子を聞き糺されるよう命じられる

---

2024-09-07 10:22 | ページ No. : 11

は当年 2 隻

のオランダ船がバタヴィアから出港している

---

2024-09-07 10:22 | ページ No. : 11

その船を探すために港内に入ってきた

---

2024-09-07 10:22 | ページ No. : 11

し正直に答えなければこの鉄砲で撃ち殺す

---

2024-09-07 10:23 | ページ No. : 11

カピタンはなぜ来ないのかと船主が尋ねる

---

2024-09-07 10:23 | ページ No. : 11

本船には 350 人が乗り込んでいる

---

2024-09-07 10:23 | ページ No. : 11

図書頭が奥に入り言ったの

---

2024-09-07 10:23 | ページ No. : 11

あまりにも法外な物言いであるから望の品を渡すには及ばない

---

2024-09-07 10:24 | ページ No. : 12

こちらから先手を打って焼き打ちする

---

2024-09-07 10:25 | ページ No. : 12

佐賀聞役関傳之允筑前聞役花房久七を呼び出し書院において直に話された

---

2024-09-07 10:25 | ページ No. : 12

不埒の至極である 品々を届ける前先に焼打ちを仕掛ける

---

2024-09-07 10:25 | ページ No. : 12

そのため図書頭も御番所へ出動するから急ぎその用意をせよ

---

2024-09-07 10:25 | ページ No. : 12

人数が揃わないようであれば佐賀蔵屋敷並びに筑前水浦屋敷に有り合わせの人数を引き連れ兩人とも出頭せよと厳しく申し渡された

---

2024-09-07 10:26 | ページ No. : 12

傳之允が答えて言うには深堀より返事が来ないので今少しお待ち下さいませと言って次の間へ引き用人徳右衛門へも同じことを言う

---

2024-09-07 10:26 | ページ No. : 12

傳之允久七の二人だけなので恐れ入りますが一旦戻って重役の者(?)に尋ねますと言って退散する

---

2024-09-07 10:26 | ページ No. : 12

沖では水と野菜を異国船へ届けた連中の帰りが遅い?と待っている

---

2024-09-07 10:26 | ページ No. : 12

夕暮れになって甚左衛門と茂十郎が帰ってきて牛と野牛などを届けてくれれば残る  
1 人も戻すとイギリスの船主が申し出ていると聞いた

---

2024-09-07 10:27 | ページ No. : 12

横文字を差し出した

昨夜手紙でお願いしていた水と野菜は今日届けていただきおかげを持って早速船内  
で用いております

---

2024-09-07 10:28 | ページ No. : 12

薪は格別船内では必要なものなのでなにとぞ2艘分ほどもお届けくださりますよう  
船主が申ししております シキンムル

---

2024-09-07 10:29 | ページ No. : 12

私の上陸につきましては牛野牛などを積み込むまでは上陸はできません

---

2024-09-07 10:29 | ページ No. : 12

水 芋 並びに薪これは早くお届けくださいますようお願い申し上げます

水5艘芋 200 斤

これは異国船より送られてきた船主のお願いで

シキンムル

---

2024-09-05 12:28 | ページ No. : 12

先ほど関傳之允花房久七に命じられた焼き打ちの件については返事が長引き重役の  
者も来ないので、傳之允久七を呼び出され 直ちに二人が参上

---

2024-09-05 12:28 | ページ No. : 12

未だ深堀から何も言って来ない次第ですが準備もあるので延期して欲しいとのこと  
図書頭の出動を止めるわけではなく焼き打ちの準備が出来ていないと申し出ておりま  
す

---

2024-09-05 12:29 | ページ No. : 12

私どもは聞き役で軍役はできません等と埒もないことを用人徳右衛門へ申す

g

---

2024-09-05 12:29 | ページ No. : 12

手を変え品を変えとにかく返事を引き伸ばし毎度同じの事である

2024-09-05 12:29 | ページ No. : 12

200 年来こういうことがなかった時代だから油断もあるかもしれないが鍋島家の恥  
とこそ思われよ

2024-09-05 12:30 | ページ No. : 12

図書頭傳之允の申し開きを聞かれて肥前的人数が揃わないのなら焼き打ちもできそ  
うもない

2024-09-05 12:30 | ページ No. : 12

希望の品々を差し入れ紅毛人（オランダ人）二人を取り戻せば直ちに出帆してもそ  
のままにしておくしかない

2024-09-05 12:30 | ページ No. : 13

人見藤左衛門他沖に出ている検使達に山田吉左衛門を派遣して伝えさせる

2024-09-05 12:31 | ページ No. : 13

カピタンが願い出て言うにはハウセマンに伝達した船主の願う品々を送る際にはホ  
ウセマンも異国船へ遣わしたい

2024-09-05 12:31 | ページ No. : 13

ハウセマンが再び異国船へ行く事はいかなものか 再び留置されることもあるかも  
しれないので品々を届けることだけ済ませろと申された

2024-09-05 12:31 | ページ No. : 13

行かないと違約となりシキンムルの身の安全にも関わることもありえます

2024-09-05 12:32 | ページ No. : 13

図書頭これを聞かれて とても両家の軍勢でこちらから焼き打ちするべき手段も整わ  
ない上カピタンの願いもまた理屈の通っている

2024-09-05 12:32 | ページ No. : 13

牛野牛その他食用の品々を取り揃えハウセマンが付き添い通詞岩瀬弥十郎お役所付  
きを付き添いにして申中刻（16 時）の頃沖の御番所に滞在している検使の元まで遣  
わした

2024-09-05 12:33 | ページ No. : 13

紅毛人2人を受け取ったら直ちに異国船が出帆するとそのまま出帆させておくこと下手にこちらから手出しをして異国船が引き返し港内に侵入したりしては御番所は立ち向かうことができないのでそのまま出帆させるべきの旨を山田吉左衛門が佳行丸へ来て人見藤左衛門その他へ言い渡す

-----  
2024-09-05 12:33 | ページ No. : 13

佳行丸においては酉上刻ごろ（17 時）右の品々を持ってハウセマンその他が付き添い来た

-----  
2024-09-05 12:34 | ページ No. : 13

少しでも早く行ったほうがいいと言うので通詞石橋助左衛門弥十郎が付き添い御役所き溝口仙兵衛林與次右衛門がついて出船する

-----  
2024-09-05 12:34 | ページ No. : 13

検使の菅谷保次郎花井常蔵は別船に移り沖へ行く

-----  
2024-09-05 12:34 | ページ No. : 13

異国船からもシキンムルが答えた

-----  
2024-09-05 12:35 | ページ No. : 13

端船を出して受け取るように船主へ伝えよ

-----  
2024-09-05 12:35 | ページ No. : 13

船主も船縁に出てきた様子で夜中なので端船に積み替えは難しいので本船に直に漕ぎ寄せろ

-----  
2024-09-05 12:35 | ページ No. : 13

今一度乗船してシキンムルと一緒に降りてきます

-----  
2024-09-05 12:35 | ページ No. : 13

助左衛門然らば乗船しなるだけ急いで 2 人とも一緒に降りて来い

-----  
2024-09-05 12:36 | ページ No. : 13

牛野牛など積み込んだ荷船を異国船に漕ぎ着けた

-----  
2024-09-05 12:36 | ページ No. : 13

ハウセマンは乗船しカピタンからの返書を船主へ渡した

-----  
2024-09-05 12:36 | ページ No. : 14

品々を船積みの上はお約束通りオランダ人 2 人ともお戻してください

-----  
2024-09-05 12:37 | ページ No. : 14

牛 4 匹野牛 12 匹鶏十羽梨 1 袋持ってきたと弥十郎が答えた

-----  
2024-09-05 12:37 | ページ No. : 14

は水薪はまだ来ないのかと聞くのでその品々は今晚手当出来ないの明朝届けると  
助左衛門が答える

-----  
2024-09-05 12:37 | ページ No. : 14

水と薪を届けた上で兩人とも返すと船主が言っている

-----  
2024-09-05 12:38 | ページ No. : 14

助左衛門が水薪は明日早朝届ける約束はいささかも相違なく牛野牛その他食用の  
品々を積載した以上は約束通り二人のオランダ人を返すよう船主に言うべし

-----  
2024-09-05 12:38 | ページ No. : 14

水 5 艘薪 2 艘は明日朝間違いないと届くと助左衛門弥十郎の 2 人で固く約束

-----  
2024-09-05 12:38 | ページ No. : 14

ハウセマンが現れて食事をしているところである

-----  
2024-09-05 12:39 | ページ No. : 14

これも明日の朝水や薪と一緒に届けると返答した

-----  
2024-09-05 12:39 | ページ No. : 14

運んできた牛野牛その他食用の品々の船積みが済んだ頃安針役体の者異国船よりバ  
ッテイラへ降り立ち助左衛門へ厚く挨拶をして言葉ははわからなかったけれども望  
みの品を届けてくださり感謝していると言う様子に見えた

-----  
2024-09-05 12:39 | ページ No. : 14

あまりにも遅すぎる早くこちらに引き上げるように

2024-09-05 12:40 | ページ No. : 14

程なく船主その他安針役体の者 5 6 人船の梯子の際まで兩人を送り懇ろに別れをして差し戻した

2024-09-05 12:40 | ページ No. : 14

梯子の綱も緋の羅紗で包んだ新しい綱に巻き返えるなど全体にとても丁寧に扱った様子であった

2024-09-05 12:40 | ページ No. : 14

「オランダ人は 2 人とも降りたか」と尋ねるので 2 人とも降りましたと答えたこれは**検使の船でお役所付きのものが尋ね**てきた

2024-09-05 12:41 | ページ No. : 14

菅谷保次郎花井常蔵が乗る佳行丸へ召連れるように命じ御番所の方へ乗り返し佳行丸へ乗り移り沖の様子などを尋ね菅谷保次郎が紅毛人二人通詞助左衛門召し連れ別船にて序へ行き

2024-09-05 12:41 | ページ No. : 14

人見藤左衛門は戸町御番所へ 山田吉左衛門は西泊御番所へ行き紅毛人二人とも取り戻したが御番所の人数が揃わず打ち払うことが出来ない ついては異国船が出帆しようとも止めることもなくそのまま出帆に任せ御番所の警備は嚴重に固めるように西泊番頭鍋島七衛門・戸町番頭蒲原次右衛門に命じ御役所附遠見番兩組の番船へ異国船を見守り

2024-09-05 12:42 | ページ No. : 15

人見藤左衛門花井常蔵荒堀五兵衛

2024-09-05 12:42 | ページ No. : 15

カピタン其の外が聞いて廣間から出迎え二人に面会し喜びは限りなかった

2024-09-05 12:43 | ページ No. : 15

イギリス船は本国を出発してベンガル国へ行き同所より 49 日経って当地へ着岸しました **本国を出帆して 8 ヶ月**になります (注 明白な嘘)

2024-09-05 12:43 | ページ No. : 15

本船には 350 人乗り組んでいます

-----  
2024-09-05 12:43 | ページ No. : 15

オランダ人を召し捕らえたのは通訳をさせるため

-----  
2024-09-05 12:44 | ページ No. : 15

薪水食料を早速用意していただき有り難く思っております

-----  
2024-09-05 12:44 | ページ No. : 15

二度とご当地へは近寄りません

-----  
2024-09-05 12:44 | ページ No. : 15

今夕持ってきた品々をどうぞと渡したところ船中で非常に重要な品々を下された恩義を感悦した様子でありまして奉行様へお礼を申し上げまたカピタンへも返礼として何か送りたいと申しました

-----  
2024-09-05 12:45 | ページ No. : 15

御奉行よりお許しがないと受け取ることはできない

-----  
2024-09-05 12:45 | ページ No. : 15

酒食等振る舞い丁寧にあしらわれましてうえに私たちを上陸させるよ

-----  
2024-09-05 12:45 | ページ No. : 15

通詞衆へも右の届けられたものへのお礼を申し上げているような様子に見受けられました

-----  
2024-09-05 12:45 | ページ No. : 15

私どもが船より降りる際には梯子の際まで皆々が見送りに出て懇ろに別れを告げ届けたものへの謝辞を再び言われました 私どもは船の中で食べるようにと酒を 2 フラスココップ 1つ他にビスケット 1 包を渡されました

-----  
2024-09-05 12:46 | ページ No. : 16

今後のために右の船に厳しく申し付けられることあるか

-----  
2024-09-05 12:46 | ページ No. : 16

あの船の出帆を厳しく差し止めるとお考えもあるでしょうか

-----

2024-09-05 12:46 | ページ No. : 16

オランダ人を妨害するために来たと敵国のものが申したと聞きます それはシカト申  
し上げ難い事

ドウフ

2024-09-05 12:47 | ページ No. : 16

万万一 船が出帆できないようなことになりましてはかえっていろいろな面倒となる  
ものと思われまますので彼の者どもが申す通り早々に帰帆を命じられますようお願い  
申し上げます (ドウフにとって超重要な説得)

2024-09-05 12:47 | ページ No. : 16

関傳之允が参上し このたび異国船の端船が港内に乗り上こんだ件につきこの船が滞  
船中は  
御用船の外通行を許さないとの伺い書を差し出してきた

2024-09-05 12:47 | ページ No. : 16

8 月 17 日朝水と野菜を積んで森山金左衛門が沖のイギリス船へ行き  
カピタンが目録を作った

2024-09-05 12:48 | ページ No. : 16

水 5 艘 薪 2 艘 芋二百斤 梨 30 これを届けますので受け取りください

2024-09-05 12:48 | ページ No. : 16

受取書 牛 4 匹 野牛 12 匹 鶏 10 羽 梨 100

2024-09-05 12:48 | ページ No. : 16

御奉行所へ口添えをいただ

2024-09-05 12:48 | ページ No. : 17

何か贈りたいと思っておりますがその事は難しそうなのでまたの機会に恩謝したい

2024-09-05 12:49 | ページ No. : 17

咬啮吧 (バタビア) 手紙でもお送りしたいものがあれば広東から便宜を図って届け  
る

2024-09-05 12:49 | ページ No. : 17

お元気にお暮らし下さいますよう

-----  
2024-09-05 12:49 | ページ No. : 17

右書面 4 通はいずれもイギリス文字で書いてありそれをカピタンが和訳して申し聞きま

-----  
2024-09-05 12:49 | ページ No. : 17

巳の刻ごろ（10 時）イギリス船が帆支度をしている様子を近習の者が遠眼鏡にて見て

-----  
2024-09-05 12:49 | ページ No. : 17

すぐに 2 階へ上がられ遠眼鏡でご覧になった

-----  
2024-09-05 12:50 | ページ No. : 17

詰めている者皆を呼び観察させた

-----  
2024-09-05 12:50 | ページ No. : 17

中村継次郎菅谷保次郎を検使として行くように命じられる

-----  
2024-09-05 12:50 | ページ No. : 17

出がけに御番所へ立ち寄り異国船が出帆するが万一乱暴をするようなら直ぐに打ち払う準備をするよう命じ

-----  
2024-09-05 12:50 | ページ No. : 17

イギリス船へ乗り付けて横文字で申し渡す

-----  
2024-09-05 12:51 | ページ No. : 17

検使中村継次郎菅谷保次郎は大型の鯨船で御役所附陽右衛門藤四郎三十郎町野丈八それぞれが鉄砲を用意して乗り込み別船御役所附 4 人 鉄砲用意して一同乗り出す

-----  
2024-09-05 12:51 | ページ No. : 17 40p

戸町御番所へ行き番頭に面談を申し込んだところ西泊へ評議のため行っているとのことなので西泊へ行き番頭鍋島七左衛門物頭大野吉兵衛と面談し図書頭が申し渡したことを伝え御番所を出て乗船したところ異国船は碇を上げ出帆の様子

-----  
2024-09-07 10:30 | ページ No. : 17

が順風で午の刻頃（12 時）走り出しみるみるうちに帆影が見え隠れするようにな

ったので小瀬戸へ行き遠見番所へ上がり遠眼鏡で見るともはや十里余も離れている  
見る間に 14 5 里も隔たつたと遠見番が言うの

---

2024-09-07 10:31 | ページ No. : 17

一同引き取り帰りがけにまた西泊御番所へ行き鍋島七左衛門に面談し人数書きなど  
を受け取って帰船した

---

2024-09-07 10:31 | ページ No. : 17

大村上総介間役北条奎之允が参上して上総介長崎へ出発したのもうすぐお話  
しするために参上します

---

2024-09-07 10:31 | ページ No. : 17

陸上からの人数もすぐに長崎へ出ますので警備場所を御指図くださいとのことなの  
で波止場へ詰める固めるように命じた

---

2024-09-07 10:31 | ページ No. : 17

松平官兵衛間役花房久七が交代して伊丹丹彌が参上しこ言う非常時なので二人とも  
勤務して詰めるように届け出た

---

2024-09-07 10:31 | ページ No. : 17

佐賀家老諫早豊前 (11 代当主諫早茂図 レザノフ来航時は警備に出動)

---

2024-09-07 10:32 | ページ No. : 17

大村上総介間役松浦鐵十郎が参上し大村家士大将大村右近用人大村永學物頭松田土  
作之丞が同道してもはや異国船が帰帆してしまったけれどもどこを警備するか心得  
たら良いのかと申し出たのでいずれも波止場を備えるよう申し渡される

---

2024-09-07 10:32 | ページ No. : 17

佐賀藩の関傳之允が参上し異国船が 17 日昼頃出帆しましたので御番船伊王崎辺り  
を守っている

---

2024-09-07 10:32 | ページ No. : 18

並びに昨夜御指図のあった異国船焼き打ちについて 直ちに深堀で火船の仕組みを急  
遽準備すべしと存じましたがそれには及ばないとお達しなのでそのままにしてお  
りますとの書付を差し出した

---

2024-09-07 10:33 | ページ No. : 18

焼き打ちは神崎高鉦などの山の上から火矢を打ちかけ自然引払致出帆候 朝にも移合候節は陰の尾山或いは神島伊王島等へ兼て備え置いてある石火矢など打ち続け船からも追い打ちするべき手當（手順？）するとの書付で報告してきましたが

-----  
2024-09-07 10:33 | ページ No. : 18

小瀬戸遠見番から申の中刻（16 時）申の方（南西）に帆影が見え隠れるとの 報告があった

-----  
2024-09-07 10:33 | ページ No. : 18

諸家一同を呼び出し異国船の帆影が見え隠れするのでその旨国本へ知らせるようにと図書頭が直に申し渡された

-----  
2024-09-07 10:33 | ページ No. : 18

大村藩には人数を引き揚げるように申し渡した

-----  
2024-09-07 10:33 | ページ No. : 18

いろいろなところに警備している者ともに引き払う様申し渡した

-----  
2024-09-07 10:34 | ページ No. : 18

帯刀も明日からは平日の通りに戻す

-----  
2024-09-07 10:34 | ページ No. : 18

いろんな警備の詰め場から引き上げたとの報告が続々と届く

-----  
2024-09-07 10:34 | ページ No. : 18

申の刻過ぎ（17 時）大村上総介庁に来られ図書頭と対面され しばらくお話をされた後退去

-----  
2024-09-07 10:35 | ページ No. : 19

図書頭自筆で長崎の担当勘定奉行柳生主膳正へ 1 通同役（長崎奉行）曲淵甲斐守へ 1 通 認め

-----  
2024-09-07 10:36 | ページ No. : 19

（私は）その時月番（誰？取調掛り手附熊谷興十郎？通航一覧の単独）なので近習のものに持たせて来た 右 2 通の自書を包んでこの書状宿次並びに町使へ入可給と

認めてある上包みを取って中の書状を取り出すと開（披）封は無用と書いてある

-----  
-----  
2024-09-07 10:36 | ページ No. : 19

医師近習の者へも酒など賜りいつもより一段機嫌も宜しく四つ時過ぎる頃皆暇賜りぬ

-----  
2024-09-07 10:37 | ページ No. : 19

予も始めて下宿し

-----  
2024-09-07 10:38 | ページ No. : 19

用人上條徳右衛門が来て図書頭の書いた書に戻せと言うのでそれは出来ませんこの包みをご覧下さいと図書頭から渡された件の包みを見せると自筆にて書付があったので（私に）家老詰所へ来いと言うので行ったところ家老用人給人など揃っていて図書頭に起こったことを話されている

-----  
2024-09-07 10:39 | ページ No. : 19

家来の面々（つまりこの筆者は家来ではない）も何故自害されたのかその事情を知らないので件の自書にはその詳細があるのではないかと仕切りに開封しようというが（私は）これを許さずここに至ってまず表向きは病氣と発表してその夜（奉行）大病と関係者へ伝える

-----  
2024-09-07 10:39 | ページ No. : 19

図書頭今朝は 17 日でこう言う騒動の中でも安祥寺の御宮に参詣されて帰館のあといろいろ指揮をされて昼頃異国船の出帆を御覧になった時は無意（無念？）の表情

-----  
2024-09-07 10:40 | ページ No. : 20

て夕方大村家が来られてご対面がありそれが済んで自書を認められ近習の人を避けてこの自書を呈書の間を持たせ

-----  
2024-09-07 10:40 | ページ No. : 20

その隙に庭に降り立たれ稲荷の籬（竹や芝を荒く編んだかき）の横に座り東に向かって礼拝してその座を立たず脇差を抜いて襦袢の袖を切り落として刀を巻き諸肌を脱いで腹一文字に切りその刀で喉を貫き鰐元まで突き通

-----  
2024-09-07 10:40 | ページ No. : 20

その時少し呻き声がしたので次の間に控えていた近習の者がこれを聞き

---

2024-09-07 10:40 | ページ No. : 20

で慌ただしく家老用人医師などを呼んで居間に抱き上げたがこと切れていた

---

2024-09-07 10:41 | ページ No. : 20

高家前田隠岐守の次男で松平周防守の末家松平舎人の養子となり高二千石播州の門に順して

---

2024-09-07 10:41 | ページ No. : 20

屋敷は湯島天神下

---

2024-09-07 10:41 | ページ No. : 20

み安永 6 丙 1777 年 10 月 8 日家督を継ぎ小普請入り

---

2024-09-07 10:41 | ページ No. : 20

天明 8 申 1788 年 12 月 24 日中奥御番

---

2024-09-07 10:41 | ページ No. : 20

寛政元酉 1789 年 11 月 17 日御袴頭

---

2024-09-07 10:41 | ページ No. : 20

寛政 8 辰 1796 年 5 月 24 日西の丸御目付

---

2024-09-07 10:41 | ページ No. : 20

寛政 12 午 1800 年 5 月 20 日御

目付

---

2024-09-07 10:42 | ページ No. : 20

享和 2 戌 1802 年 8 月 11 日御召御船手を兼任

---

2024-09-07 10:42 | ページ No. : 20

文化 4 卯 1807 年正月晦日長崎奉行任命

---

2024-09-07 10:42 | ページ No. : 20

同年 7 月 23 日江戸を発ち 9 月 5 日立山の序

---

2024-09-07 10:42 | ページ No. : 20

翌辰年 7 月 19 日西序に移り 8 月 17 日戌刻過ぎ (20 時 21 時) 自害

---

2024-09-07 10:42 | ページ No. : 20

表向きは 26 日寅の中刻 (5 時) 病死の発表

---

2024-09-07 10:42 | ページ No. : 20

て浄土宗大音寺に葬す

---

2024-09-07 10:43 | ページ No. : 20

仁心深く下を憐れみて物毎に能心をつけて  
至直にして決断す内剛にして外柔なり 寔 (すみやか) に? その職にたえたり

---

2024-09-07 10:43 | ページ No. : 20

今年表向  
きは 48 歳だが実は 41 歳諸

---

2024-09-07 10:43 | ページ No. : 20

頂頭嶽と言う山の平で笠頭  
(風頭?) と言うところに鳥居を立てて堀を築き未本社不営人々参詣す (私も 丹  
治學  
直?) 参りしたが石の鳥居に銘あり

---

2024-09-07 10:43 | ページ No. : 20

右に威嚴鎮遠 猛烈以揚 45  
維神維徳 永降○祥 龍壽謹撰  
左には 後興善街 下筑後街 黎庶建之 46

---